



## 竹取物語を講談で楽しむ

秋のお月見の頃、日本に古くから伝わる

「かぐや姫」の物語を思い出します。

翁（おじいさん）の側からは、慈しんで育て、嫁にもやらなかった可愛い娘との突然の別離という悲劇として描かれます。

かぐや姫の側からはどうでしょう。

かぐや姫は「月の都」の住人で、実は罪を犯して地球へ追放になったのですが、刑期を終え月へ帰るという設定になっています。最初は、宇宙人らしく、3か月で大人になったり、5人の貴公子にも全く心を動かされない等、地球人としての人の心は無いような振る舞いでしたが、帝（天皇）にだけは心を開き、歌（短歌や和歌）のやり取りを通じて心を通わせます。そして、3年後、とうとう月から迎えが来ることになり、翁と媼（おばあさん）との別れを嘆き悲しむようになります。宇宙人のかぐや姫にも地球人らしい心が芽生えたのでしょうか？物語では、月へ帰る間際、記憶除去装置でかぐや姫は地球の記憶を失うことになっています。かぐや姫をこれ以上悲しませないための作者の心遣いでしょうか。月の都が月のどこにあるのか、作者は述べていません。かぐや姫が月でどんな罪を犯したのかも定かではありません。

そのようなことを思いながら、月を愛で物語を作った昔の日本人の気持ちになってこのお話を聞いてみるのも良いかも知れません。まるちたいけんドームでは10月3日（土曜）夕方、お月見講談「竹取物語」を企画しています。



かぐや姫の育った家 画:高部哲也